

皆が安心して暮らせる町（社会）を目指して

栄町朗読奉仕会は、町広報や社会福祉だより、小説・エッセイ集等の音訳 CD を作成し、視覚障がい者の方や高齢者施設に届ける活動を 1991 年より行っています。

訪問日は栄町広報紙 11 月号の収録日で、役場の会議室では 8 名の会員が収録準備をしていました。月 1 回発行の町広報紙は、表紙の解説からはじまる 1 枚 80 分の CD に収めています。収録前には別日を設けて担当者 2 名が 2 時間ほどかけて朗読者の割付を行います。割り振られた朗読箇所は、各自が要約・練習して録音日に臨んでいるそうです。

収録はマイクのテストや音声チェック、話すスピードなども皆で確認しながら 1 人ずつ録音を進めていました。準備の時はとても和やかな雰囲気ですが、録音に入ると無言になりとても真剣です。聞きやすい通る声で、外の雑音にも気を遣いながら収録を進めていました。

パソコンを使って録音した後はエコロ福祉基金で助成を受けた CD 複写機の出番です。この機械の導入により 1 度に 5 枚の CD をコピーすることができるようになり、作業を効率化でき、より多くの方に利用してもらいやすくなりました。

栄町朗読奉仕会の活動は、町広報紙以外にも年に 2 回小説・エッセイ集を収めた音訳 CD「ひだまり」を作成、他にも地域のお祭りでのミニ朗読会、対面朗読、社会福祉協議会からの依頼を受けて紙芝居や朗読も行っています。また、高齢者施設訪問もされていると聞き、地域で必要とされている意義ある活動だと改めて感じました。

また、団体メンバーの 1 人がエコロ福祉助成の組合員投票の応援メッセージをパソコンでまとめ、会のメンバーで回覧されたと聞き、嬉しく思いました。虹の街組合員からのメッセージには、「CD を楽しみに待っている方々の為に CD 複写機で活動を盛り上げていってください！」「ステキな活動がこれからも沢山の方々に広がりますように。」「1 人でも多くの人に情報とよろこびを届けられますように！」など、団体の活動を理解し応援する熱いメッセージが多くあり、胸を打たれました。

これからの超高齢化社会に向けて、ますます必要とされていく栄町朗読奉仕会の活動を、これからも応援していきたいと強く思いました。

福祉委員 理事 紅谷 秋恵

